

グリーンフラッグ 11月の活動

～新しい堆肥場作り～

収穫したもち米の米ぬかを混ぜて、発酵を高めた落ち葉が腐葉土となりました。一昨年から腐葉土を3月の公民館まつりで「相川小100%の腐葉土」として提供したところとても好評でした。相川小には、大量の落ち葉が出ます。落ち葉はきは、外掃除の子ども達にとって戦いのようです。では、落ち葉を焼却ゴミで捨てていたら、いったい何袋になるのでしょうか？堆肥場に持っていけば有効活用になるし、何よりも森を循環させることに意義があります。今も収穫したもち米の米ぬかを蒔きました。

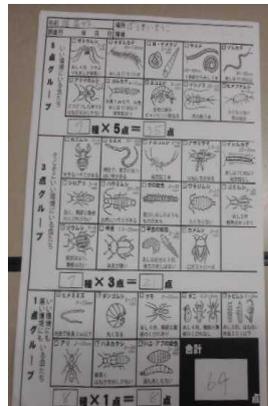


= 森林インストラクター =

堆肥場の柵は1年も経つと木々がもろくなります。毎年、かながわトラストみどり財団の森林インストラクターのみなさんに修復していただくとともに、6年生の子ども達と一緒に腐葉土を掘り出していただき、今年の落ち葉がたくさん入るように地面を掘って底をきれいにさせていただいています。堆肥場から出した土はブルーシートの上に出しました。6年生達は、落ち葉が真っ黒な土になることにびっくりしていました。



相川小の環境レベル



6年生の理科学習には土壌生物の学習があります。森の手入れをした後は、森林インストラクターのみなさんのご指導のもと、土壌生物を採取して観察をしました。採取される土壌生物を環境指標に照らし合わせて点数化すると、そこがどんな環境かが見えてきます。

観察地点は3箇所、相川の森の堆肥場、中庭、防災倉庫の周辺の花壇です。どの地点も35点以上を超えているのですが、防災倉庫の周りは64点という高得点を出しました。昨年もその場所が一番高い結果が出ています。周りが落葉樹で落ち葉がたまっていること、防災倉庫の陰になるので温度の変化が少ないことなどが要因と考えられます。毎年、土壌生物からデータを取ることで相川小の環境がしっかり維持されているかを確認できる良い学習機会となっています。

花が咲き、種になりました！



猛暑に見舞われたカワラノギクが何とかその花を咲かせ、種になりました。3年生が観察にいて種取りをしました。来年の苗を育てるのに使います。たくさんの苗を育て、来年に上手く引き継げるといいです。

= 収穫時期は大切 =



6年は、落花生の苗を植えました。試し掘りの時にはたくさんの落花生が付いていました。期待に胸を膨らませていたのですが、2週間以上掘るのを遅らせたら虫に食われてしまいました。やはり、農作物には、収穫時期というものがあるのですね。勉強になりました。